2021 年度コンピテンシー・マイルストーン到達度調査 報告書

2022 年 5 月 23 日 医学部 IR 室

1. 調査概要

1-1. 調查目的

本学医学部学生の学修成果(コンピテンシー・マイルストーン到達度)に関する実態 を調査することを目的とした。

1-2. 調査項目

調査項目は、本学のコンピテンシー・マイルストーン(2年次修了時、4年次臨床実習開始前、卒業時)の各レベルの到達度について、学生が自己評価を行った。

1-3. 調査対象

2021 年度医学部 1~5 年生 596 名を対象とした。

1-4. 調査方法

4年次においては、2021年10月7日において、Web(AIDLE-K)により記名式の調査を実施した。2021年度1年生、2年生、3年生、5年生においては、2022年4月4日~4月12日において、Web(AIDLE-K)により記名式の調査を実施した。

1-5. 回答者数と回収率

2021 年度 1 年生から 5 年生まで 411 名が回答した。内訳は、1 年生が 108 名 (回収率 81.2%)、2 年生が 79 名 (回収率 65.8%)、3 年生が 88 名 (回収率 81.5%)、4 年生が 101 名 (回収率 84.9%)、5 年生 25 名 (回収率 30.2%) であった。

2. 結果

コンピテンシー・マイルストーンは、2年次レベル、4年次臨床実習開始前レベルで設定されている。そこで、2年次、4年次において、レベル未達成の割合が各学年の40%以上の項目を抽出した。グラフのタイトルは卒業時コンピテンシーのそれぞれの項目とした。

<2 学年次>

IV. 診療技能

33. 身体診察と基本的臨床手技を適切に実施できる。

(2年次のマイルストーン)

身体診察と基本的臨床手技の概略を説明できる。

34. 診療録を SOAP 形式で、客観的、かつ簡潔に記載し、プロブレムリスト、鑑別診断を 作成できる。

(2年次のマイルストーン)

診療録における POS(Problem Oriented System)の概略を述べることができる。

35. 適切な検査を選択し、結果を正しく解釈できる。

(2年次のマイルストーン)

日常診療でよく用いられる検査の原理や手技の概要を説明できる。

<4 学年次>

- II. コミュニケーション
- 21. 様々な ICT (Information and Communication Technology) を適切に選択し、活用できる。

(4年次のマイルストーン)

病態・検査・治療を ICT を活用しながら説明できる。

- III. 医学の知識と科学的探究心
- 26. 疾患の適切な治療、最新の治療を理解し説明できる。

(4 学年次マイルストーン)

疾患ごとの、基本的な治療を説明することができる。

- IV. 診療技能
- 36. 時、相手・場所に応じた適切なプレゼンテーションができる。

(4 学年次マイルストーン)

伝えたい内容を聴く人が理解しやすいようにプレゼンテーションができる。

- V. 地域社会への貢献
- 43. 医療計画,地域医療構想について説明できる。

(4 学年次マイルストーン)

わが国における医療計画として、地域医療の効率化、体系化の意義を概説できる。(医療法第30条)

44. 住民啓発活動や一次医療の診療補助により地域医療に参加ができる。

(4 学年次マイルストーン)

地域医療における住民啓発活動や一次診療の具体的内容を説明できる。

45. 社会保障制度を理解し、地域包括ケアの実践に参加できる。

(4 学年次マイルストーン)

高齢者社会における地域の包括的な支援・サービス提供体制の構築にかかわる取り組みを説明できる。

47. 国際社会の健康問題を把握,説明することができ,可能な範囲でその問題に対処できる。

(4 学年次マイルストーン)

我が国のみならずアメリカ、ヨーロッパ諸国、アジア諸国のヘルスケアの様々なあり方 について概説できる。

3. まとめ

コンピテンシー・マイルストーン調査を各学年次で行い、さらに、2年次、4年次で 未達成割合が40%以上の項目を抽出した。

2 学年次においては、VI. 診療技能のマイルストーンにおいて、未達成割合が多かった。1、2 学年次においては、早期体験実習(シミュレーション実習・コミュニケーション実習、看護体験実習、診療科見学実習)、地域社会医学実習、チーム医療実習、外来案内実習が開講されている。これらの低学年次の実習を通して診療技能の2年次のマイルストーンの修得率が上昇することが期待される。

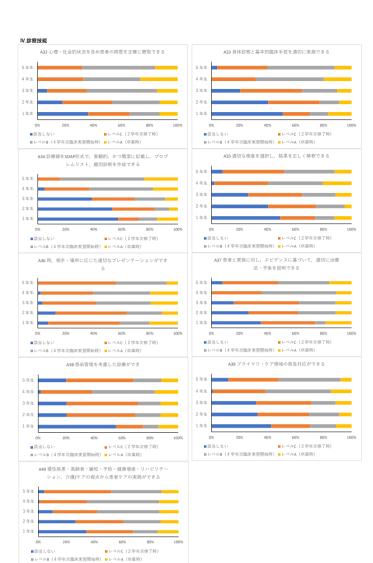
4 学年次においては、V. 地域社会への貢献のマイルストーンにおいて、未達成割合が多かった。2 学年次の地域社会医学実習、3 学年次の地域包括ケア実習、4 学年次の地域医療早期体験実習、4 学年次の地域医療総合医学などの実習や講義などを通して、これらの4 学年次のマイルストーンの修得率が上昇することが期待される。

2021年度マイルストーン到達度 2022年4月に新2年生から新6年生を対象として、AIDLE-Kにて実施 4年生においては、臨床実習開始前(2021年10月)に実施 I.プロフェッショナリズム A1 高潔, 誠実, 正直, 共感の態度を保ち, それらを示すことが A2 他者の多様な価値観を尊重できる 5年生 5年生 4年生 4年生 3年生 3年生 2年生 2年生 1年生 1年生 60% ■該当しない ■レベルC (2 学年次修了時) ■レベルB (4 学年次臨床実習開始時) ■レベルA (卒業時) ■レベルB(4学年次臨床実習開始時) ■レベルA(卒業時) A3 自分の利益よりも患者・家族・住民・社会の利益を優先的に A4 倫理原則、法律に基づいて行動できる 考え、その利益を達成するために可能な限り努力できる 5年生 5年生 4年生 4年生 3年生 2年生 1年生 ■レベルC (2学年次修了時) ■レベルC (2学年次修了時) ■レベルB(4学年次臨床実習開始時) ■レベルA(卒業時) ■レベルB (4 学年次臨床実習開始時) ■レベルA (卒業時) A6 自分の行為と決断を振り返り、次の行為と決断に活かすこと ができる A5患者と家族の心理・社会的背景を理解し、全人的に対応でき 4年生 3年生 3年生 2 年生 1年生 ■該当しない ■レベルC (2 学年次修了時) ■レベルB (4 学年次臨床実習開始時) ■レベルA (卒業時) ■該当しない■レベルC (2 学年次修了時)■レベルB (4 学年次臨床実習開始時)■レベルA (卒薬時) A7 自己の目標を設定し、目標達成のための方法を見いだし、そ A8 適切に自己評価をし、能力の向上のために、自己学習を自律 れを実行できる 的に継続できる 5年生 4年生 4年生 3年生 2年生 ■該当しない ■レベルC (2 学年次修了時) ■レベルB (4 学年次臨床実習開始時) ■レベルA (卒業時) ■レベルC (2学年次修了時) ■レベルB (4 学年次臨床実習開始時) ■レベルA (卒業時) A9 自らの知識や技能を多職種で共有し、それを後進に伝え、後 進を育成できる A10 精神面、身体面で自己管理に努めることができる 4年生 3年生 3年生 2年生 2年生 ■該当しない■レベルC (2 学年次修了時)■レベルB (4 学年次臨床実習開始時)■レベルA (卒業時) ■該当しない■レベルC (2 学年次修了時)■レベルB (4 学年次臨床実習開始時)■レベルA (卒業時) A12 他の職種の考えや役割を理解、尊重し、多職種協働を実践 A11 医療チームの一員として協働し、効果的な役割を果たすこ とができる できる 3年生 2年生 1年生 5年生 4年生 1年生 ■該: ■レ:

						2年生				
						244				
					_	1年生				
209	- 4	3%	60%	80%	100%	0%	20%	40%	60%	80%
L)		■ レベ:	ルC (2学年	次修了時)		■該当しな	U.		■レベルC (2≐	学年次修了時)
	臨床実習開始	(時) レベル				■レベルB	(4学年次臨床	実習開始時)	■レベルA (卒)	影時)
者, 家族	,住民を医	療チームの-	一員として	考え、協働で	T ^o	A14 安	全な医療を提	是供するための	の基本原則を明	II解し,実践 *
		きる						õ		
						5年生				
			_							
						4年生				
						3年生				
						2年生				_
_						1 年仕			_	
=						1年生			_	
20	%	10%	60%	80%	100%	1年生 0%	20%	40%	60%	80%
20	%		60% ルC(2学年		100%	_			60% ■レベルC (2 [±]	
			νc (2学年	次修了時)	100%	0%	L.			学年次修了時)
		■ レベ/	νc (2学年	次修了時)	100%	0% ■該当しな ■レベルB	い (4 学年次臨床	実習開始時)	■レベルC(2章 ■レベルA(卒)	学年次修了時) 業時)
	臨床実習開始	■ レベ/	νc (2学年	次修了時)	100%	0% ■該当しな ■レベルB	い (4 学年次臨床	実習開始時)	■レベルC (2 =	学年次修了時) 業時)
年次		■レベル (計) ■レベル	レC(2学年 レA(卒業時	次修了時)	100%	0% ■該当しな ■レベルB	い (4 学年次臨床	実習開始時)	■レベルC(2 st	学年次修了時) 業時)
年次生	臨床実習開始 回答者 108	■レベル 時) ■レベル 学生数 133	PC (2 学年 PA (卒業時 回収 81.2	次修了時)	100%	0% ■該当しな ■レベルB	い (4 学年次臨床	実習開始時)	■レベルC(2 st	学年次修了時) 業時)
年次生生生	臨床実習開始 回答者 108 79	■レベル 時)■レベル 学生数 133 120	PLA (卒業時 回収 81.2 65.8	次修了時) ·) · · · · · · · · · · · ·	100%	0% ■該当しな ■レベルB	い (4 学年次臨床	実習開始時)	■レベルC(2 st	学年次修了時) 戦時)
年次生生生	臨床実習開始 回答者 108 79 88	学生数 133 120 108	PLC (2学年 PLA (卒業時 回収 81.2 65.8 81.5	次修了時) (i) (i) (i) (i) (i) (ii) (ii) (iii)	100%	0% ■該当しな ■レベルB A15 常 5 年生 4 年生	い (4 学年次臨床	実習開始時)	■レベルC(2 st	学年次修了時) 戦時)
*	国答者 108 79 88 101	学生数 133 120 108 119	PLC (2学年 PLA (卒業時 回収 81.2 65.8 81.5 84.9	本 2 % 3 % 5 % 9 %	100%	0% ■該当しな ■レベルB A15 常 5 年生 4 年生 3 年生	い (4 学年次臨床	実習開始時)	■レベルC(2 st	学年次修了時) 戦時)
生生生生	臨床実習開始 回答者 108 79 88	学生数 133 120 108	PLC (2学年 PLA (卒業時 回収 81.2 65.8 81.5	本 2 % 3 % 5 % 9 %	100%	0% ■該当しな ■レベルB A15 常 5 年生 4 年生	い (4 学年次臨床	実習開始時)	■レベルC(2 st	学年次修了時) 戦時)
生生生	国答者 108 79 88 101	学生数 133 120 108 119	PLC (2学年 PLA (卒業時 回収 81.2 65.8 81.5 84.9	本 2 % 3 % 5 % 9 %	100%	0% ■該当しな ■レベルB A15 常 5 年生 4 年生 3 年生	い (4 学年次臨床	実習開始時)	■レベルC(2 st	学年次修了時) 戦時)
生生生生	国答者 108 79 88 101	学生数 133 120 108 119	PLC (2学年 PLA (卒業時 回収 81.2 65.8 81.5 84.9	本 2 % 3 % 5 % 9 %	100%	0% ■該当しなルB ■レベルB A15 常 5 年生 4 年生 3 年生 2 年生	い(4学年次臨床	実習開始時)	■レベルC(2 ³ ■レベルA(卒) こを考え、質む	学年次修了時) 戦時) 女善を実践で
E E E	国答者 108 79 88 101	学生数 133 120 108 119	PLC (2学年 PLA (卒業時 回収 81.2 65.8 81.5 84.9	本 2 % 3 % 5 % 9 %	100%	0% ■該当しなルB ■レベルB A15常 5年生 4年生 3年生 2年生 1年生	い (4 学年次臨床 に医療の質を 20%	実習開始詩) 改善すること 40%	レベルC (2 [±] レベルA (卒) こを考え、質さ	学年次修了時) 製時) 数善を実践で: 80%
生生生生	国答者 108 79 88 101	学生数 133 120 108 119	PLC (2学年 PLA (卒業時 回収 81.2 65.8 81.5 84.9	本 2 % 3 % 5 % 9 %	100%	0% ■該当しなルB ■レベルB A15常 5年生 4年生 3年生 2年生 1年生 0%	い (4学年次臨床 に医療の質を 20%	来習開始時) ・改善すること 40%	■レベルC(2 ³ ■レベルA(卒) こを考え、質む	学年次修了時) 家時) 女蓋を実践で 80%







5年生 4年生 3年生

